

【目次】

- 1、2014年度浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び評価委員会  
設置要綱
  - 1、学校評価実施の趣旨 p1
  - 2、評価委員会設置要綱 p2
  - 3、自己評価アンケート項目の設定基準 p3
  - 4、2013年度自己評価アンケート調査項目 p4
  - 5、自己評価アンケート調査結果の処理方法 p6
- 2、学校評価アンケートの結果考察 p7
- 3、学校関係者評価委員会・懇話会議事録及び授業参観まとめ p9
- 4、今後の課題 p13
- 5、第三者委員報告書
- 6、学校評価アンケート結果

# 1、2014年度浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び評価委員会設置要綱

2014、9、18 学校評価委員会

## 1、学校評価実施の趣旨

2007年（平成19年）6月の学校教育法改正、同10月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008年4月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の3点を挙げています。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定しその状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

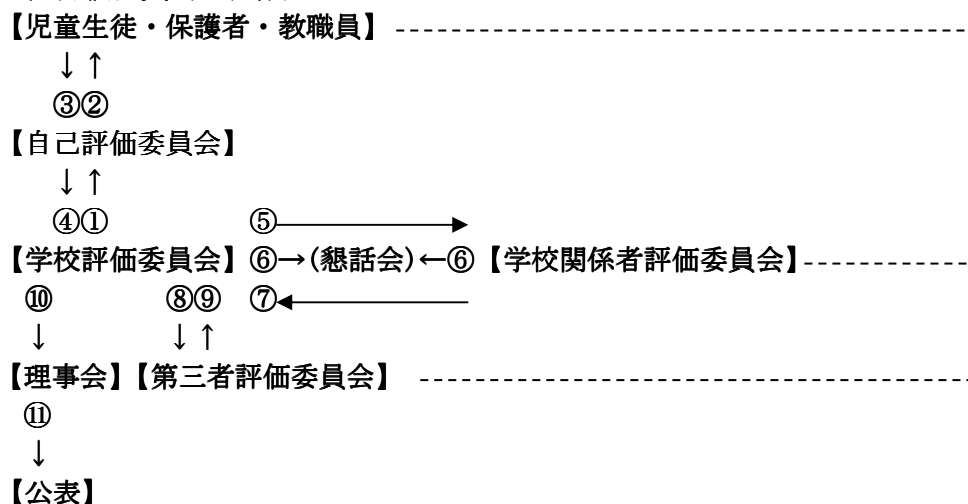
私立学校では上記3点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありません。学院では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、学院の教育活動の長短の現状を検証し、より良い教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

### ※学校評価のスケジュール

9月	2014年度学校評価実施要領決定
10月	児童生徒・保護者・教師学校評価アンケート調査
10月	学校評価委員会がアンケート調査結果を学校関係者評価委員会へ提出
10月	第1回授業参観及び学校関係者評価委員懇話会
2月	第2回授業参観及び学校関係者評価委員懇話会
3月	学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出
4月	第三者評価委員による評価報告書作成及び学校評価委員会へ提出
5月	学校評価委員会より理事会へ報告
5月	報告書公表

## 2、評価委員会設置要綱

### (1) 評価委員会の組織図



### (2) 各委員会の役割（文中の①～⑪は組織図の数字に対応する）

#### i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー7名により構成され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め次の職務を遂行する。

- ① 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ④⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

#### ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ①② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③④ 調査結果を集計し委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し委員長へ提出する。
- ⑤ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成し、学校評価委員会へ提出。

#### iii 学校関係者評価委員会

PTA 四役より1名、評議員より1名、同窓会役員より1名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会よりの自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員会報告書を取りまとめそれを学校評価委員会へ提出する。（必要に応じて授業参観、意見聴取、アンケート調査等を行なう）

#### iv 第三者評価委員会

第三者により構成し（1人でも可）、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

## 2014 年度学校評価各委員会一覧

委員会	構成委員
i 学校評価委員会	藤倉二三男校長（委員長）、福島宏政教頭（副委員長） 東海林敏雄理事長、坂根岳志初等部長、後藤里志初等部副部長 長谷川久中高等部長、今村基洋中高等部副部長、小澤聖一事務長
ii 自己評価委員会	福島宏政教頭（委員長）、坂根岳志初等部長（副委員長）、 長谷川久中高等部長（副委員長）、東海林敏雄理事長、藤倉二三男校長、 後藤里志初等部副部長、今村基洋中高等部副部長、小澤聖一事務長
iii 学校関係者評価委員会	秋元利英氏（PTA会長）、安藤誠四郎氏（評議員）、小林賢太郎氏（同窓会会長）
iv 第三者評価委員会	清重尚弘氏（九州ルーテル学院院長・九州ルーテル学院大学学長）

### 3、自己評価アンケート項目の設定基準

- (1) 「自己評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行なうのではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従いアンケート項目を設定した。
- (2) 2008～2010 年度の 3 年間は「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の 4 分野に対する意識調査を 22 の詳細項目にわたって調査し、有意な一定の結果を得た。2011 年度は継続調査として上記 4 項目を細分化せずに、ざっくりと 4 項目の満足度を調査した。  
同時に新しい試みとして、学院の日頃の教育活動に対する満足度を知るため、新たな 4 項目「意見聴取の機会」「教師同士のコミュニケーション」「情報公開」「安全対策」の満足度調査と 2 項目「学院は学習指導と生活指導のどちらに力を入れているか」「どちらに力を入れて欲しいか」の優先順位調査を実施した。  
2012 年度は評価委員の助言を参考に、学院の教育方針に対する満足度を率直に正面から問うことにした。これが児童生徒・保護者用アンケートの VI、VII「人格的成長と学力的成長の両立達成度」と「優先度」についての設問である。  
さらに教師用のアンケートでは保護者がどちらを欲しているか推察する問いも実施した。教師（学院）と保護者の意識の乖離または一致度を知るためである。  
2013 年度はこれらの経過を踏まえた上で、問題点を具体的に把握するため項目ごとに意見や要望を自由に記入してもらい欄を設けた。  
2014 年度は学院の校舎新築移転事業と日程的に重なるため、調査・懇談の規模が若干縮小される見通しである。
- (3) 建学の精神、今年度の重点目標、教育方針は以下のようになっている。  
建学の精神「神と人とを愛する人間、神と人にと愛される人間」

重点目標 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

#### 教育方針

- ・ 心豊かな、知性を備えた児童生徒の育成
- ・ 各自の個性を尊重し、創造性豊かな児童生徒の育成
- ・ 英語教育の徹底と国際的視野の向上を図り、国際人として社会に貢献できる児童生徒の育成
- ・ 運動を通して強健な心と身体をつくり、神と人にと奉仕する児童生徒の育成

#### 4、2014年度自己評価アンケート調査項目

##### 【 児童生徒保護者用 】

###### I. 過去6年間の継続調査

- [A] 建学の精神等、学院の根幹を成す学院の指導全般について
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- [B] 学習指導に対する学院の取り組みについて
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- [C] 人格教育に対する学院の取り組みについて
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- [D] 行事全般に対する学院の取り組みについて
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

###### II. 学院があなたの意見等を聞く機会を作ってくれていると感じますか

- (1) 大いに感じる。 (2) まずまず感じる。  
(3) あまり感じない。 (4) ほとんど感じない。

###### III. 学院の教師どうしのコミュニケーションについてどのように感じますか

- (1) 大いに取れていると感じる。 (2) まずまず取れていると感じる。  
(3) あまり取れていないと感じる。 (4) ほとんど取れていないと感じる。

###### IV. 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について

- (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる。  
(2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる。  
(3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる。  
(4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる。

###### V. 学院の安全対策全般についてどのように感じますか

- (1) 大いに対策をとっていると感じる。 (2) まずまず対策をとっていると感じる。  
(3) あまり対策をとっていないと感じる。 (4) ほとんど対策をとっていないと感じる。

###### VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」（豊かで強健な心、個性、創造性など）を促し、「学力的な成長」も達成するのが学院の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか

- (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている。  
(2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている。  
(3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる。  
(4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる。  
(5) 両方とも不十分である。

###### VII. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(5) 現在の方針を堅持して欲しい。

## 【 教師用 】

- I. 過去6年間の継続調査（自分自身の努力に対する満足度）
- [A] 建学の精神等、学院の根幹を成す指導全般に関するあなたの満足度は？
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である
- [B] 学習指導に関するあなたの満足度は？
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- [C] 人格教育に関するあなたの満足度は？
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- [D] 行事全般に関するあなたの満足度は？
- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。  
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。
- II. 学院（あなた）は保護者・児童生徒の意見等を聞く機会を作っていると思いますか
- (1) 大いに思う。 (2) まずまず思う。  
(3) あまり思わない。 (4) ほとんど思わない。
- III. 学院（あなた）の教師どうしのコミュニケーションについてどのように感じますか
- (1) 大いに取れていると感じる。 (2) まずまず取れていると感じる。  
(3) あまり取れていないと感じる。 (4) ほとんど取れていないと感じる。
- IV. 学院（あなた）の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について
- (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる。  
(2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる。  
(3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる。  
(4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる。
- V. 学院（あなた）の安全対策全般についてどのように感じますか
- (1) 大いに対策をとっていると感じる。 (2) まずまず対策をとっていると感じる。  
(3) あまり対策をとっていないと感じる。 (4) ほとんど対策をとっていないと感じる。
- VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」（豊かで強健な心、個性、創造性など）を促し、「学力的な成長」も達成するのが学院の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか
- (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている。  
(2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている。  
(3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる。  
(4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる。  
(5) 両方とも不十分である。
- VII. 上記の方針について、保護者はどのように欲していると思いますか。
- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(5) 現在の方針を堅持して欲しい。
- VIII. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか
- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。  
(3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。  
(5) 現在の方針を堅持して欲しい。

## 5、自己評価アンケート結果の処理方法

※Ⅰ～Ⅴについての数値は(1)～(4)をポイント化して満足度を表したものである。

- (1) 大いに満足している…3点      (2) まずまず満足している…2点  
(3) やや不満である…1点      (4) 大いに不満である…0点

回答総数12名の場合

例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3\text{点} \times 12\text{人}) + (2\text{点} \times 0\text{人}) + (1\text{点} \times 0\text{人}) + (0\text{点} \times 0\text{人}) = 36\text{点}$   
 $36 \div (3\text{点} \times 12\text{人}) \times 100 = 100\text{ポイント}$

例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3\text{点} \times 6\text{人}) + (2\text{点} \times 6\text{人}) + (1\text{点} \times 0\text{人}) + (0\text{点} \times 0\text{人}) = 30\text{点}$   
 $30 \div (3\text{点} \times 12\text{人}) \times 100 \approx 83\text{ポイント}$

例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人  
 $(3\text{点} \times 3\text{人}) + (2\text{点} \times 3\text{人}) + (1\text{点} \times 3\text{人}) + (0\text{点} \times 3\text{人}) = 18\text{点}$   
 $18 \div (3\text{点} \times 12\text{人}) \times 100 \approx 50\text{ポイント}$

例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人  
 $(3\text{点} \times 0\text{人}) + (2\text{点} \times 0\text{人}) + (1\text{点} \times 6\text{人}) + (0\text{点} \times 6\text{人}) = 6\text{点}$   
 $6 \div (3\text{点} \times 12\text{人}) \times 100 \approx 17\text{ポイント}$

全員が大いに満足していれば満点で100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイント。一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

※Ⅵ～Ⅶ(Ⅷ)についての数値は回答総数に対するパーセンテージを表す。

## 2、学校評価アンケートの結果考察 ※文中の数値は適宜四捨五入して表記しています

### (1) I. [A]～[D] (建学の精神、人格教育、学習指導、学校行事) の満足度は良好

満足度のポイント平均は教師59 (昨年61)、児童生徒69 (昨年72)、保護者69 (昨年69) となっている。教師の評価が初めて60を下回ったが、児童生徒と保護者は60を大きく上回っており、問題は無いレベルと思われる。

児童生徒の評価は中等部で大きく低下する傾向が続いたが、今年度、中等部がやや盛り返した反面、初・高等部が低下し、初→中→高の順になった(75→68→66)。初・高等部の満足度低下の原因を調査する必要がある。また今年度中等部の盛り返しと高等部低下の原因はその両方に関わる学年、つまり今年度の10年に特有の不満傾向が反映している可能性があるとするればその原因が何かを探らなければならない

保護者も児童生徒と同様の傾向を示している(75→68→65)。

教師評価低下の原因は中等部教師の評価の低さにある。(61→55→61)。学習。生活ともに課題の多い中等部教育の難しさを物語っていると思われる。

### (2) II. (意見聴取の機会)、IV. (情報公開の度合い) は中等部で改善だが継続努力も必要

IIにおける児童生徒の満足度は、初等部70 (昨年67 一昨年65)、中等部58 (昨年53 一昨年49)、高等部59 (昨年62 一昨年59)、保護者は初等部63 (昨年62 一昨年59)、中等部56 (昨年55 一昨年55)、高等部56 (昨年57 一昨年55) と50点台のポイントが多く今年度も低めの評価である。とはいえ初・中等部では昨年に引き続き改善の傾向を示している。教師が日常から児童生徒、保護者との丁寧な対応を心がけたことや、面談の機会を多く持つようにしたことが効を奏していると思われる。

IVは児童生徒で初等部66 (昨年69 一昨年71)、中等部60 (昨年53 一昨年56)、高等部59 (昨年63 一昨年60)、保護者では初等部64 (昨年64 一昨年63)、中等部58 (昨年58 一昨年61)、高等部54 (昨年59 一昨年60) となっている。(1)と同様に中等部の盛り返しと高等部の低下がある。

II～IVの項目は学院のコミュニケーション能力が問われている。この能力を磨き、児童生徒、保護者、教職員同士の間には磐石な信頼関係を築いていくことが肝要である。

### (3) V. (安全対策) は高い評価

安全対策はどの部でも評価が高く、ポイント平均で78と高得点である。緊急地震速報の導入、登下校連絡システム、警備員常駐、下校方面別顔合わせ会、防災備蓄品など、自然災害、交通機関の障害、不審者などさまざまな事態を想定した対策が評価されていると考える。

### (4) VI. (教育方針の達成度) は低下気味

「人格的な成長を通して学力的な成長をも達成する」という学院の教育方針の達成度・



満足度を把握するための設問である。「人格的成長と学力的成長」が「両方とも大いに達成できている」と「まずまずできている」の合計が初中高児童生徒保護者全体で60%（昨年64% 一昨年67%）と引き続き低下傾向にある。内訳を見ると、初等部は66%（昨年69% 一昨年72%）、中等部56%（昨年56% 一昨年63%）、高等部60%（昨年69% 一昨年62%）となっている。学院の教育方針という核心部分で達成度が低下し、6割を切りそうな状況にある。

また同項目は教師全体でも51%（昨年60% 一昨年60%）と低下しており、指導する側、受ける側双方の評価が共通して低下していることを危機的に受け止め、対策を講ずる必要がある。

#### （5）Ⅶ（方針に対する要望）は学力志向が増加

児童生徒の「要望」は、初では大きな変化はないが、中高では「学力重視を要望」が増加している。中等部45%（昨年39% 一昨年33%）、高等部42%（昨年31% 一昨年38%）。逆に「両立を要望」は減少傾向である。中等部24%（昨年28% 一昨年30%）、高等部34%（昨年44% 一昨年30%）。つまり前項の「両立」の達成度の低下に対し、中高では学習面に力を入れることを要望する声が高まっていると言える。

なお保護者には大きな変化は見られなかった。

#### （6）教師Ⅷ.（教師の要望）に見える課題

教師の要望における人格重視が25%（昨年43% 一昨年24%）と一昨年レベルに戻っている。その分どの部でも「両立」と「学力重視」の割合が増加している。「両立を要望」の割合は初52%（昨年37%）、中41%（昨年35%）、高50%（昨年48%）である。平均で48%が学院の方針である人格と学力の両立を支持していることは心強いが、前項の達成度低下の裏返しとして重視度が高まったと考えられる。

「学力重視」も各部とも高まっている。初16%（昨年13%）、中36%（昨年22%）、高29%（昨年20%）。

（4）の「両立」達成度低下に対し、教師はあくまで「両立」重視の姿勢で克服したいとする意見が多数だが、「学力重視」派も増加している。特に中等部では両立41対学力36と差はわずかである。中等部教師は昨年の回答では当時の状況を反映して人格重視の要望が強かった（43%）。今年度「学力重視」が増加しているのも、現在の中等部の状況を反映した要望だといえる。

引き続き、学習、生活、教師との関わりなど学校生活全般に不満が出やすい中等部の問題を解決し、生徒・保護者の満足度を上げ、展望を持って学校生活を送れるようにすることが早急に求められている。

### 3、2014年度学校関係者評価委員会・懇話会議事録及び授業参観まとめ

#### 第1回学校関係者評価委員会・懇話会議事録

2014,10,29

日時 2014年10月28日(火) 13:00~14:30

午前中4時間目小学校授業参観(4年B組算数)、その後懇話会

場所 学院視聴覚室

出席者 学校関係者評価委員: 秋元利英(評議員、PTA会長)、安藤誠四郎(理事)、

学校評価委員: 藤倉二三男(校長)、福島宏政(教頭・司会)

オブザーバー: 東海林敏雄(理事長)

#### 議事

##### 1、授業参観について

###### (1) 実施に当たって(福島)

- ・今年度は授業の運営、児童への指示や対応、児童の態度などについて詳細に評価して頂くため、ひとつの授業(4年B組算数)に集中し通しで参観していただくことにした。
- ・特に従来から指摘されている「児童の授業中の発言や音読の声が小さい」「態度が消極的」などの課題に対する取り組みの様子について重点的に見て頂くことにした。

###### (2) 授業について意見交換

- ・教師の工夫があって分かりやすい授業展開だった。
- ・最後のまとめまで行かなかったのが残念だが、教師の対応が丁寧だった。
- ・児童の始まりと終わりの挨拶は出来るが授業中の姿勢の良くない子が気になる。
- ・発問のあと時間を与え、児童が自分で考える力を養っているのは良い。
- ・教材が入念に準備されていて効果的だが、教師の準備は大変だろう。
- ・少人数で理解が行き届いている感じがあるが、欠席者へのフォローは大丈夫か
- ・簡単なことから切り込んで行き、考えを深めさせていく、気づかせていくヒントの与え方が上手である。
- ・全員に考えさせ、予測を立てさせ、発表もさせている点が良い。
- ・教師と児童双方向のやり取りがうまくいっていた。
- ・授業の中のメリハリや切り替えがある。
- ・今後は中高等部の授業もじっくり見たい。
- ・中高等部では授業内容の情報量が増えるので教師の力量や魅力でしっかり習得させる。
- ・教師の力量を上げるため、授業をビデオに撮って相互批評の材料に活用。
- ・初等部では一定期間互いの授業を参観し合い、批評・助言し合う機会を作っている。

##### 2、学校評価アンケート調査について

###### (1) 今年度の傾向(福島)

- ・概ね6~7割の評価を得ている。
- ・意見聴取や情報公開の評価が低い(中高では5割台)。
- ・学校の方針について、学力を重視してほしいという中高生徒の要望が強い。

- ・同様の要望は教師からも増加している。
- ・今年度は自由解答欄を設けなかった。来年か再来年には実施するつもりである。

(2) 意見交換

- ・NHK 大河ドラマ等でもミッションスクールにゆかりの深い人物が取り上げられ、社会的にはキリスト教教育に有利な環境だと思われる。
- ・米国とのつながりを示しつつ、学院のミッションスクールとしての特徴をアピールしたらどうか。またアンケートにも反映させたらどうか。
- ・学院の61年の歩みを振り返り、どう評価されてきたか顧みる必要がある。
- ・英語が優れた学校という評判で入学してみたら、期待はずれだったなどということないよう、教育の中身を充実させていく必要がある。
- ・しっかりと特色が伝わるよう、アピールしていくことが大切である。
- ・子どもの大事なものを見極め伸ばしていく教育。真の人間教育を発展させたい。
- ・学力も人格も育て、個性を伸ばしていくことは難しいが、実践しているのが学院。その長所をどうアピールしていくかが課題である。

次の表は授業参観後、学校関係者評価委員に回答していただいた内容をまとめたものです

A 大いに評価できる      B まずまず評価できる

C やや問題がある      D 大いに問題がある

教師に関する評価観点			
	観 点	A委員	B委員
1	声量、言葉遣い、指示の出し方、説明の仕方等は適切か	A	B、評価できる。
2	板書の仕方、机間巡視、児童生徒の指名等は適切か	A	A、評価できる。
3	児童生徒への対応、つまずき等への対応は適切か	B	A、生徒に考える時間を与えているので良いと思う。本時はつまづいている児童がいなかった所以对応は分からない。
4	分かりやすく楽しい授業を心がけているか	A、子どもに考える時間を与えるのは良いことだ。	A、分かりやすい。
5	教材準備、教材研究、指導方法の工夫等は出来ているか	A、タイマーなど教材・小道具を上手に使っているのは良い。	A、工夫している
6	その他	休みの子どもに対するフォローはどうなっているか。	授業のペースが少し遅い。少人数のクラスなので行き届いた授業が出来ると思う。
児童生徒に関する観点			
1	授業態度(聞く態度、作業態度、ノートの取り方、私語など)	A、行動的で良い。	A、私語も少なくきちんと聞いている
2	積極的に参加しているか(挙手、発言、質問等)	A活発に発言している。	A、みんな参加している。積極的である。
3	教師との関わり方はどうか(言葉	A	A、きちんとしている

	遣い等)		
4	授業中以外の態度はどうか(挨拶,言葉遣い,友人との関わり方等)	A	B、挨拶をきちんとしている。
5	その他	姿勢を正す。	姿勢が良くない。
環境や施設に関する観点			
1	校舎内の壁、床、天井、窓、トイレ等に汚れや破損はないか	B	築 40 年以上なのにきれいに使われている。
2	教室内、廊下等の整備は適切か(整理整頓、汚れ、掲示物の乱れ等)	B、掲示物が少多い。定期的見直し、重要度、色別などの工夫が必要。	きれいにされている
3	机・椅子・教材教具等は適切か(汚れ、破損、故障等)	B	適切である
4	安全・防災設備は適切か(火災報知器、非常灯等)	B地震等緊急時の安全に関する表示は適切か。避難訓練は定期的実施しているか。	適切である
5	その他	教室は充分明るいので、蛍光灯は消しても良い。(省エネ意識の涵養)	

## 4、今後の課題

アンケートを実施し、学校関係者委員会を経て明らかになった今後の課題について、PDCA サイクルに則り、具体的な改善策を検討し、実施していく予定である。

### 1、授業の質的向上を通して人格的成長と学力的成長の両立実現

昨年の授業の講評で「児童生徒の反応が消極的」「教師・生徒の双方向性が弱い」という指摘があった。また今年度は「人格的成長と学力的成長の両立」の達成度が低いという評価があり、中高生徒、教師から学力向上への要望が高まった。

こうした声を受け、「人格的成長と学力的成長を両立させる」という基本方針の達成度向上を目指し、学習指導に力を入れていきたい。具体的には学習について専門的に研究・指導する部署として学習指導部を進路指導から独立させる。昨年に引き続き授業研究や教師への研修を通して授業の質向上に取り組むほか、各教科部会と共同して授業の中でしっかりと知識を習得し、思考力・判断力を養う方策を検討する。また現在文科省で検討中の新指導要領（2020年頃実施予定）に示されるであろうアクティブラーニングやグローバル教育を取り入れた探求型・協働型授業展開の研究を進めていく。

### 2、中等部の満足度向上

中等部の満足度の低評価に対して生徒や保護者とコミュニケーションを緊密にする、情報公開を適宜行うなどの方策をとってきた。今後もこうした対応を続けていくとともに、何よりもまず平常の学習や部活動を充実させ、毎日登校するのが楽しい中等部を創っていくことが大切である。

また、中高6年間の一貫性を強め学習やキャリア教育において中長期的な目標と展望を持って過ごせるようにしたい。そのためには学習意欲や進路選択の意識を高めるイベントや先端分野の体験学習の機会を多く設定していく必要がある。同時に自己実現やクラスの一体感を実感できる行事も実施し、生徒の満足度向上を実現したい。

### 3、移転を契機とする満足度の向上

現在様々な課題を抱えながら、思うように解決に取り組めていないのは移転準備に力を傾注しているという要素が大きい。今後新築移転によって広いグラウンドや新校舎などハード面の教育環境刷新によって満足度が向上すると期待できる。

同時にソフト面でも従来からのキリスト教主義に基づく人間教育、少人数によるきめ細かい教育、12年一貫の長期的展望を持った教育、小学校からの英語・国際教育などの特色を新しい環境の中でさらに発展させ、満足度の高い教育を実現していきたいと考えている。